OWNER'S MANUAL

デジタルサラウンド5.1チャンネル アクースティマスシステム

AM-6III

この度はAM-6IIIシステムをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、必要なときにご覧になれるよう大切に保管しておくことをおすすめします。

AM-6IIIシステム取扱説明書

※説明の便宜上、イラストは実物と異なる場合があります。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告		
警告	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告		
		通風孔のある機器のみ ●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。 この機器をあお向けや、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。 テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
		●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。 ●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。 ●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。
	分解禁止	●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。 ●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。
		●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。 **ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ** ●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

注意		
		●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 ●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。 ●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
		●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
		●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。
		●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 ●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
		●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。
		●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
		●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
		●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
		●お子様がポート（スピーカー開口部）に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

警告		
		●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。
		●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
		●スピーカーコードを熱器具の近くや直射日光のあたるところには近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災の原因となります。
		●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
		●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
		●発熱器具の近くや直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

注意		
		●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
		●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。
		●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
		●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
		●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。

音のエチケット

●音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。

スピーカーの防磁について

●サテライトスピーカーの防磁について

サテライトスピーカーは、防磁型になっていますのでテレビやモニターなどに近づけても、画面に色ムラなど影響が生じにくくなっていますが、まれに画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、サテライトスピーカーをさらにテレビから離してご使用ください。

●ベースモジュールの防磁について

ベースモジュール内部のスピーカーは、防磁処理が施されていませんので、テレビやモニターなどに近づけないでください。近づけると、画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分（約60cm以上）離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。

スピーカーのお手入れについて

キャビネットの汚れを落とす場合

●汚れやホコリは、柔らかい布でから拭きしてください。から拭きをする場合は、傷を付けないようにご注意ください。

●汚れがひどいときには、中性洗剤を薄めた水に柔らかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、柔らかい布でから拭きしてください。

●アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品はキャビネットの表面をいためますので、ご使用にならないでください。
また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

目　次

特　長

ボーズ独自のAcoustimass System（アクースティマス・システム）

サテライトスピーカーは広い再生帯域と優れた拡散性、そして驚異的な再生能力を備え、ベースモジュールには「ベースマネージメント」という発想のもと、アコースティック・ウェーブガイドなどの数多くのボーズ独自のテクノロジーを凝縮。このサテライトスピーカーとベースモジュールが一体となって、完結型スピーカーシステムでしか成し得なかった完成されたサウンドを実現しました。

新開発ベースモジュール

●低音の位相干渉マネージメント

人間の耳が200Hz以下の低音には方向性を感じないという聴覚特性に着目し、AM-6III のベースモジュールは200Hz以下のすべての低音成分を一ヶ所で再生することで、低音同士の位相干渉をマネージメント。低音信号はベースモジュールのドライバーに入力される前にハイカットフィルターで急峻に中高音を遮断し、方向性を出す不要な中高域の音をカットしています。

●管共鳴の原理を応用した、特許技術アコースティック・ウェーブガイド。

「共振共鳴」の原理を応用・進化させたボーズの特許技術アコースティック・ウェーブガイド。1.5mにもおよぶ共鳴管を3重に折り曲げてコンパクトなキャビネットに収納。最適な位置に配置された13cm口径ドライバーが生み出す空気の振動をこの管内部の空気に共鳴させることによって、効率よく音のエネルギーを創り出します。また、アコースティック・ウェーブガイドは、コンプレッション歪みが発生しにくく、重低音帯域で再生できる最大の音圧レベルを上げることに成功しました。

●マルチアンプドライブでゆとりの低音再生を実現する、低音専用Gクラスアンプを内蔵。

ベースモジュールは定格出力75Wの低音専用パワーアンプを内蔵することで、ゆとりある低音再生を可能にするアクティブ・パッシブ方式採用。5個のサテライトスピーカーは組み合わせるAVアンプで、ベースモジュールは内蔵アンプでドライブ。この結果AVアンプの負荷を軽減してサテライトスピーカーはパワフルに余裕を持った再生を実現。ベースモジュールも専用のアンプでゆとりある低音再生を可能としました。

●高出力用と通常出力用の電源部を独立して配備した2段階式パワーアンプ

大出力が必要なときだけ高出力モードに自動的に切り替わる節電タイプのため、電源利用効率に優れ、発熱量も抑えられるので、コンパクト化が可能になりました。
さらにヒートシンクの形状に工夫を凝らし、熱を効率よく逃がすことで、ノイズの発生しない自然空冷を実現。また、電源がONであっても、入力がない場合は自動でスリープ状態の省エネモード（待機電力1W以下）になります。また、電源ON時には突入電流によるトラブルが発生しないようにサイリスタを採用してソフトスタートします。

すべてが同じ特性、性能のワイドレンジ・サテライトスピーカー

●口径60mm。強力な磁気回路を備えたドライバー

振動系の見直しとバッフル板一体構造の採用により、コーン紙のエクスカーションをこのサイズとしては異例の9mmまで拡大。驚異的なワイドレンジを実現し、重低音を担うベースモジュールとのつながりを自然なものとしています。しかも、このサイズならではの広い拡散性も実現。5本すべてがまったく同じ周波数特性と同じ指向特性を持っているため、スピーカー間の音像の移動が非常にスムーズで、各チャンネルのレベル調整や音質補正も不要です。

ご使用になるアンプについて

このスピーカーシステムには、5.1（フロントL/R/C、サラウンドL/R、LFE）チャンネル分の入力があります。通常のステレオアンプでは、このシステムの本来の性能が発揮されませんので、5.1チャンネルの出力端子を装備しているAVアンプなどと組み合わせてご使用ください。

開梱時のご注意

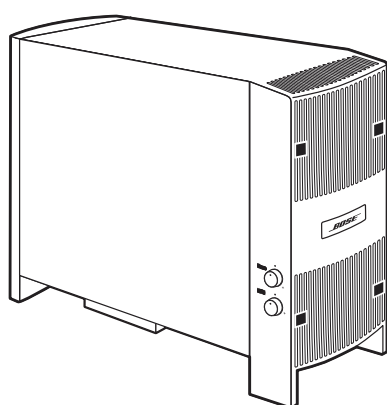
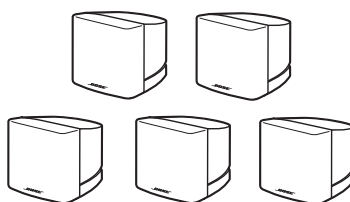
◆付属品を確認してください◆

もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。また、箱や梱包材は、後日製品の修理メンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。

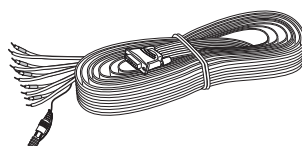
⚠警告

●AM-6IIIのベースモジュールは､約13kgあります。移動する際に、腰を痛めたりしないように十分注意して持ち上げてください。

●窒息する危険がないように､スピーカーを包んでいたビニール袋は子供の手の届かない場所に保管してください。

・パワーアンプ内蔵ベースモジュール

・サテライトスピーカー 5台

・サラウンドスピーカー用コード
15m×1セット

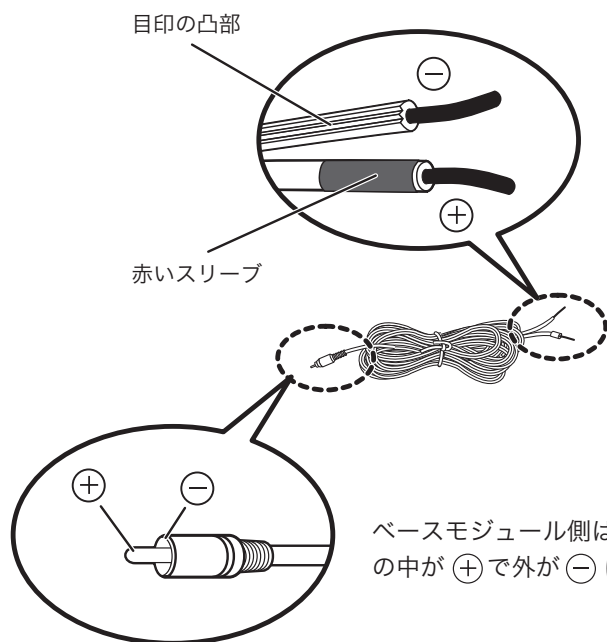
・フロントスピーカー用コード
6m×3本

・センタースピーカー用ゴム足（小）4個

・入力用スピーカーコード（LFEライン共用）
6m×1セット

ベースモジュール用
ACケーブル ×1本

スピーカーコードについて

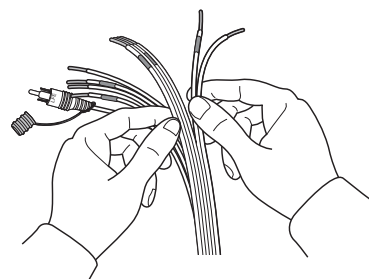
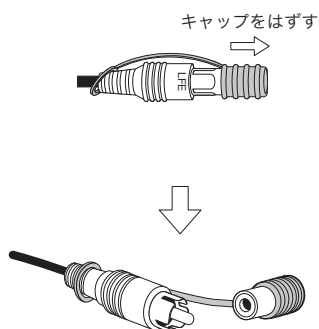
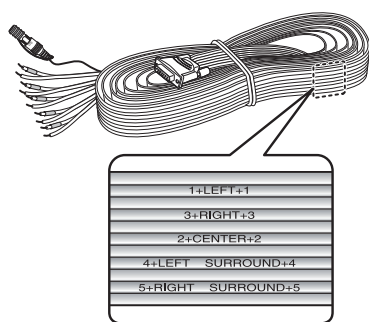
◆フロントスピーカー用コード、サラウンドスピーカー用コードの極性の見分け方◆

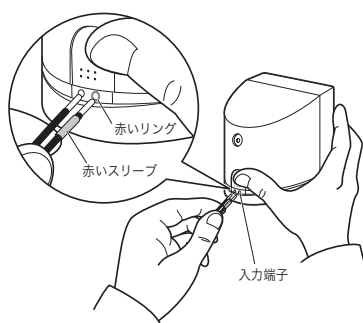
スピーカー用コードの極性（⊕、⊖）は、図のようになっています。

スピーカー側は、赤いスリーブが付いている方が ⊕ になります。スリーブが取れてしまったり、コードを短くしてご使用になる場合は、図のようにコードに凸がある方が ⊖ になりますのでコードの凸を目印にしてください。

ベースモジュール側はピンプラグの中が ⊕ で外が ⊖ になります。

◆入力用スピーカーコードについて◆

入力用スピーカーコードには図のようにコード自体に入力する信号の種類と極性が書かれています。
また、LFE用のピンプラグは、使用時にキャップをはずして使用します。

> ⚠ **注意**
> **LFE用のコードを使用しない時は、必ずキャップをはめておいてください。キャップをはめておかないと、ノイズや誤動作の原因になります。**

入力用スピーカーコードは、必要に応じてコードをさいてご使用ください。

◆サテライトスピーカーへのコード接続の方法◆

図のように入力端子の上の部分を指で押すとコードを差し込めるようになります。指をはずすとコードが固定されます。
入力端子のうち、赤いリングがついている方（⊕）に赤いスリーブがついたスピーカーコード（⊕）を差し込んでください。

システムの設置位置を選ぶ

◆AM-6IIIスピーカーシステムの設置について◆

●映画ソフトのセリフはセンタースピーカーが中心となって処理しますので、セリフが画面の中から出てくるようセンタースピーカーはなるべく画面に近い中心線上に設置することをおすすめします。

●フロントの左側と右側のスピーカーで演出されるサウンドイメージには広がり感があり部屋のどこにいても自然に聞こえるよう気を配りながら、画面を挟むように設置します。

●サラウンド・スピーカーは、見ている人の映像イメージを広げる細かなサウンドや効果音、またソフトによってはセリフの一部を再生し、見ている人に臨場感を与えます。直接後ろからではなく両側から音声が耳に届くような位置にサラウンド・スピーカーを置くとよいでしょう。

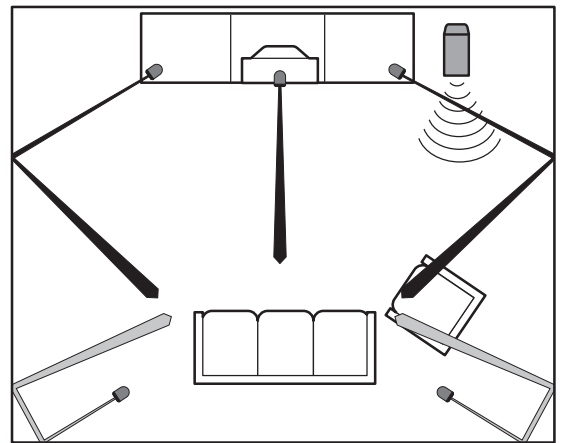
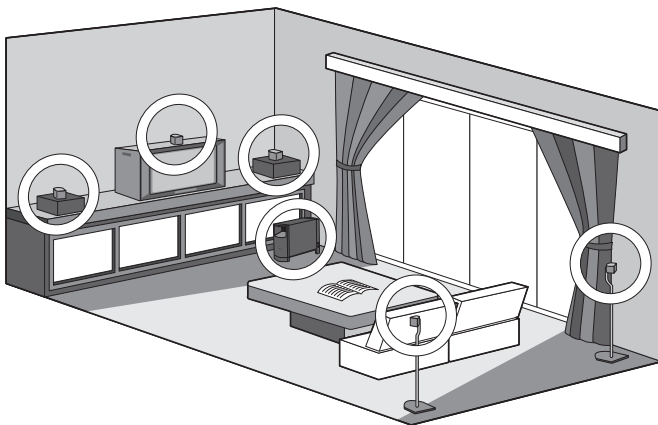
●フロントスピーカー、サラウンド・スピーカーとも左右は、すべてリスナーが画面に向いた状態が基準になります。

●サテライトスピーカーはすべて防磁型タイプです。テレビやモニターなどの画面の近くに置いても、画面への影響は非常に起きにくくなっています。

●ベースモジュールは防磁処理されていませんので、画面から 約60cm以上離して設置することをおすすめします。また、音響的には、部屋の前方（画面側）に設置したほうが良い結果が得られます。

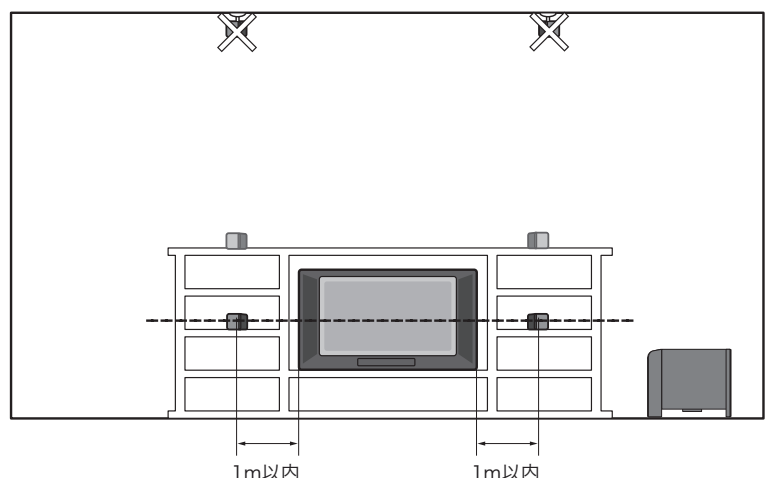
各スピーカーの設置位置について

以下の設置例は、あくまでも推奨設置例ですので、必ずこのように設置しなければならないというものではありません。部屋の状況や、好みに合わせていろいろなセッティングをお試しください。

◆スピーカーの設置例◆

◆フロントサテライトスピーカー◆

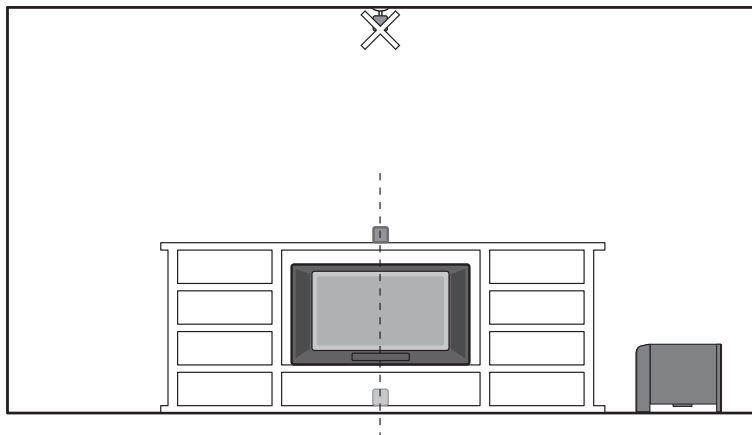
・テレビやスクリーンの両脇にスピーカーを設置する場合は、音と映像がバラバラにならないように画面の端から、それぞれ1mを超えない範囲内に設置することをおすすめします。

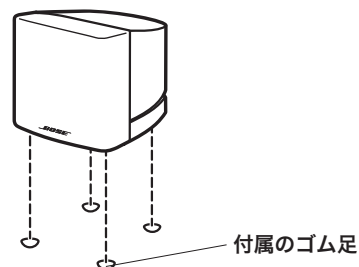
・音像と映像のバランスを取るために、画面中央と一直線上にフロントスピーカーを置くことをおすすめします。
画面の上端の高さに置くこともできます。

※天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像の移動感と映像の移動とが不自然になります。極端に高さは違えないほうがよいでしょう。

◆フロントセンター(前方中央)サテライトスピーカー◆

・サテライトスピーカー1台をセンタースピーカーとしてテレビの上または下に置きます。下に置く場合はサテライトスピーカーに直接テレビの重量がかからないようにしてください。

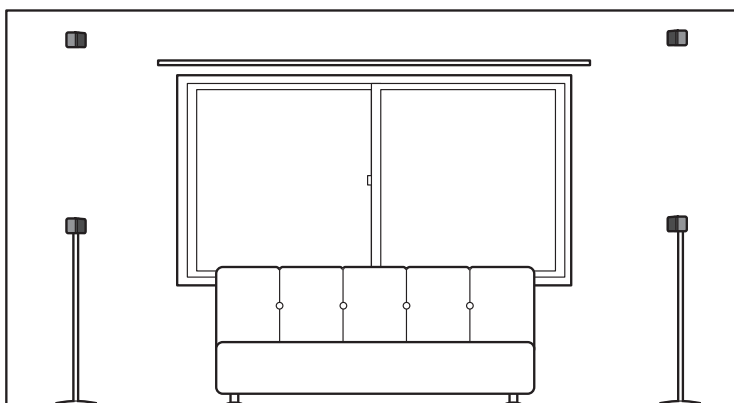
・センタースピーカーはできるだけ画面に近い位置に置くと、セリフが画面上から聞こえやすくなります。

※天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像(セリフ)と映像の定位が不自然になります。極端に高さは違えないほうがよいでしょう。

⚠注意

テレビの上にセンタースピーカーを配置する場合、安定性を良くするためにセンタースピーカー用ゴム足(小)を使用してください。

◆サラウンドサテライトスピーカー◆

サラウンドの音声は、リスナーの直接後ろ側からでなく、壁の反射などを使って両側から届くよう設置することをおすすめします。

・座席の横か後ろに、スピーカー同士をできるだけ離して置きます。

・これらのスピーカーをリスナーの真後ろに置きたい場合は、耳に直接音声が届かないように、高い位置に置くか、リスナーに向けないようにします。
ただし、大きな音を出せないようなところでは直接向けた方がよい場合があります。

センタースピーカー、ベースモジュールのゴム足について

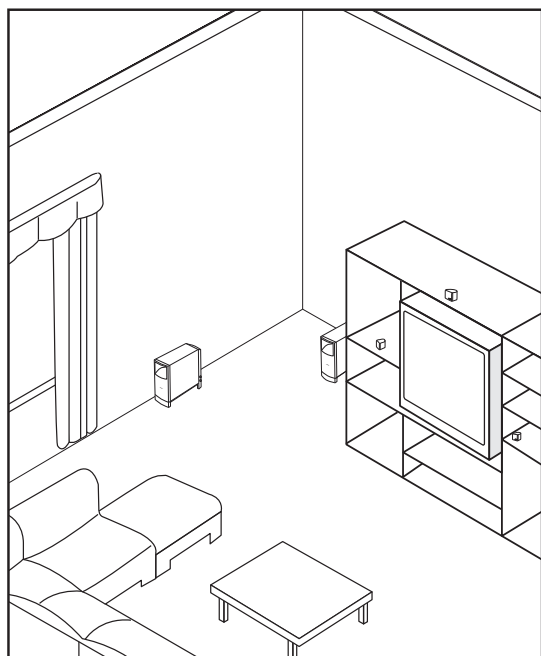
⚠注意

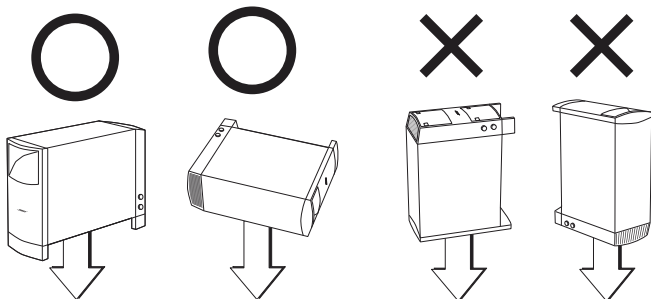
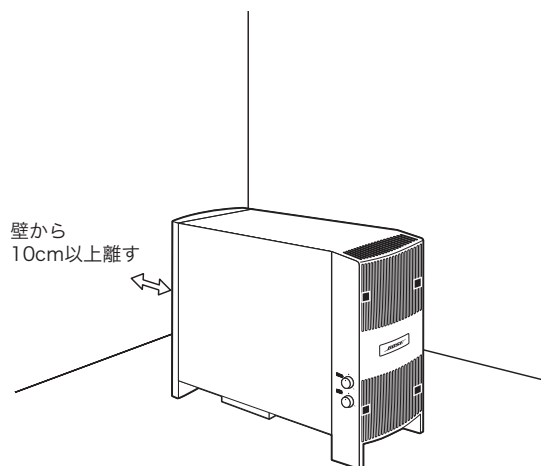
- **ゴム足は素材の性質から、設置面の塗料によっては、移行または汚染を示す可能性あります。事前にご確認のうえご使用ください。**
- **付属のゴム足は高摩擦性を有している分、塗装面との接触面に密着しやすい性質を持っております。接触面の一部を剥がしてしまう可能性も有りますので、事前にご確認のうえご使用ください。**

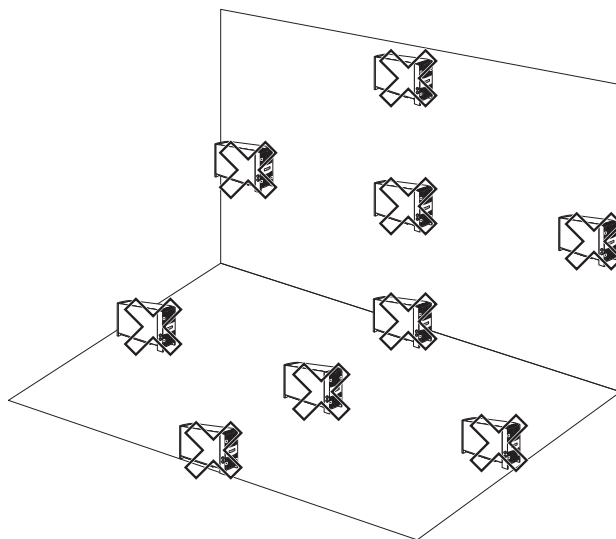
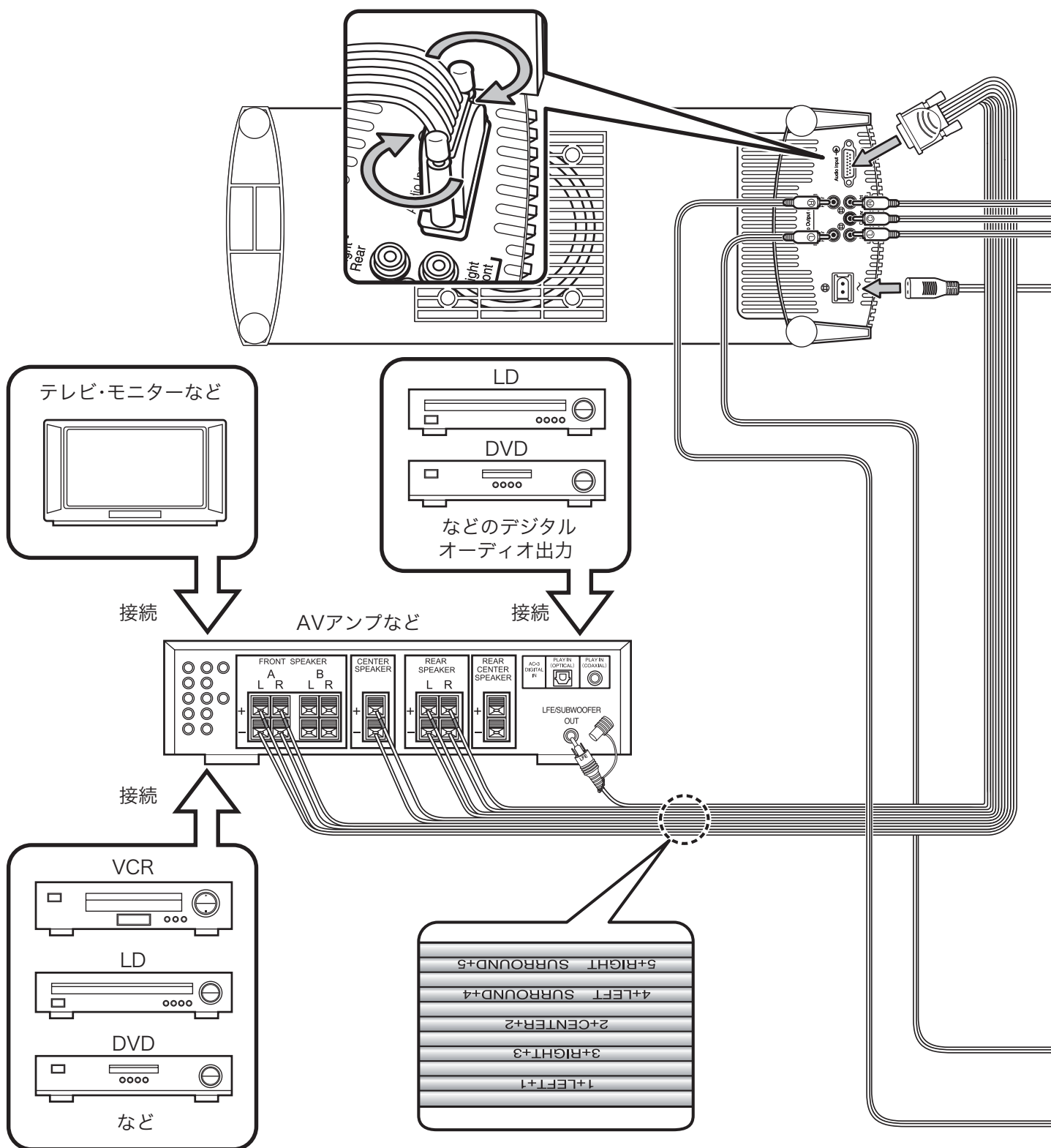
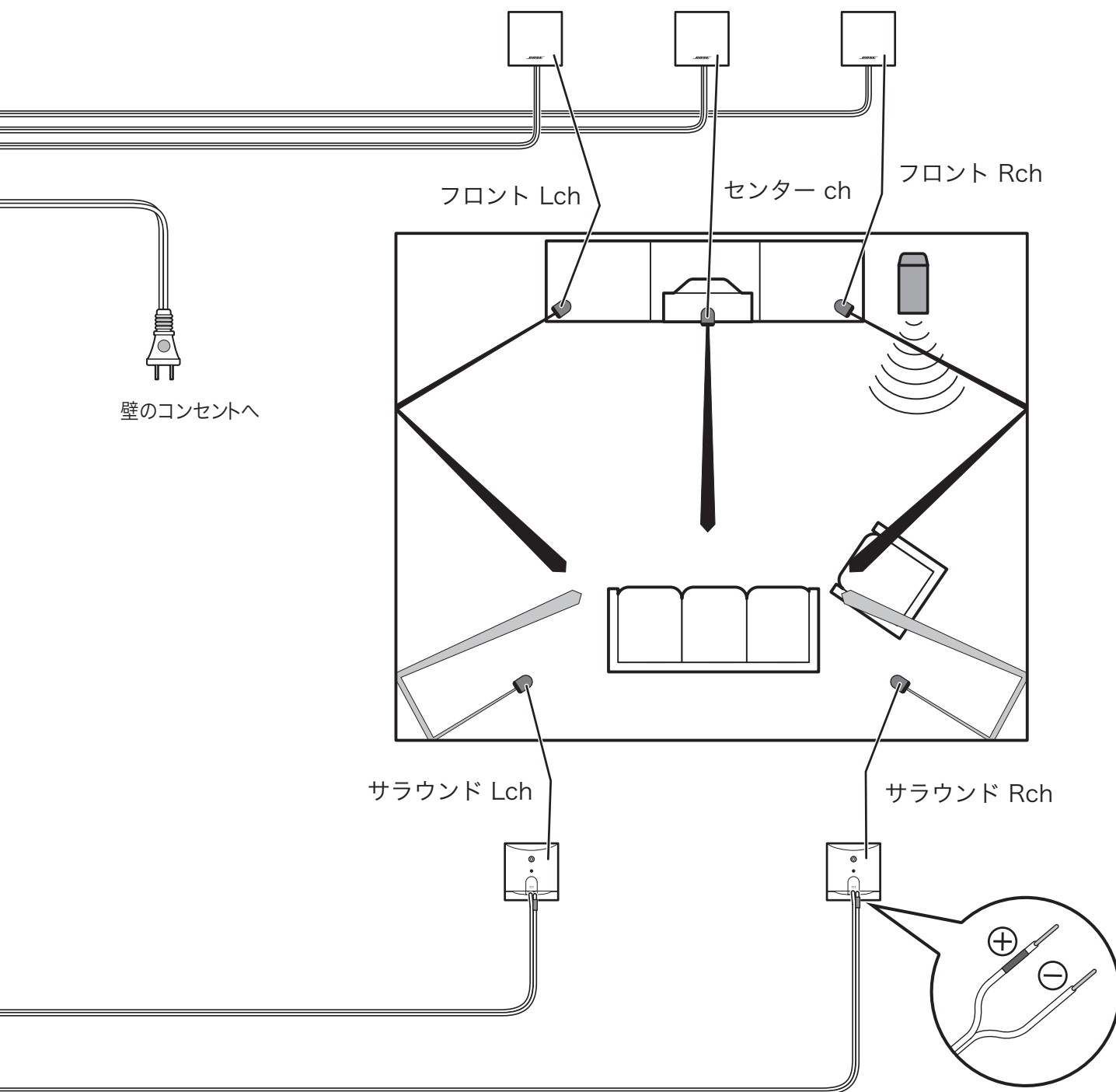
◆ ベースモジュール ◆

下記の手順に従って、ベースモジュールの設置位置を選んでください。

注：ベースモジュール内部のスピーカーは防磁されていませんので、ブラウン管を使用しているテレビの場合は、画面に影響を与えないように少なくとも60cm以上離してください（機種とブラウン管のサイズによって異なります）。

1.フロントスピーカーを設置した部屋の端に近い壁か、テレビのうしろの壁にベースモジュールを設置します。その際、入力用スピーカーコード、各スピーカーコードおよび、ACケーブルが届くことを確認してください。また、ベースモジュールは、テーブルの下や、ソファーの陰などに設置してもかまいません。その際、家具やカーテンがベースモジュールの換気開口部を塞がないように十分気を付けてください。

2.ベースモジュールの置き方を決めます。ベースモジュールには、アンプが内蔵されていますので、適切なアンプの冷却を行うために、コネクター部を下にして設置するか、調整用のつまみを上にして設置してください。

注:側面のスリット部分からの空気で内部の機器の冷却を行っていますので、決してベースモジュールのスリットの部分を塞がないでください。

3.ポート（四角い開口部）が塞がったり低音が出過ぎないように、ポートを室内、あるいは壁に沿うように向けます。
ポートを壁側にする場合は10cm以上離すようにしてください。

4.ベースモジュールは、壁と壁の中央や、天井と床の中間の高さにならないように設置してください。低音に対して悪い影響が出る場合があります。

テレビ・モニターなど
LD
DVD
などのデジタル
オーディオ出力
接続
接続
AVアンプなど
FRONT SPEAKER
CENTER SPEAKER
REAR SPEAKER
REAR CENTER SPEAKER
LFE/SUBWOOFER OUT
接続
VCR
LD
DVD
など
5+RIGHT SURROUND+5
4+LEFT SURROUND+4
2+CENTER+2
3+RIGHT+3
1+LEFT+1

※赤いスリーブが外れてしまい ⊕、⊖
が分からなくなってしまった場合は
P8参照。

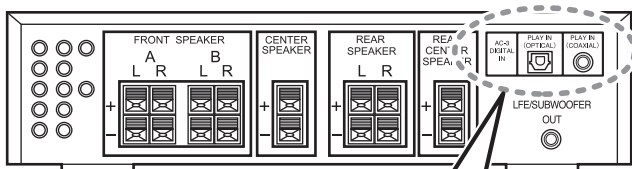
◆接続の確認をします◆

●AVアンプ、ベースモジュール、サテライトスピーカーの全ての接続をもう一度確認してください。部屋のスピーカーの位置に対応した端子に間違いなく接続されていることを確認します。

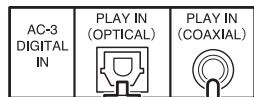
●AVアンプと接続しているコードの極性（⊕、⊖）に間違いがないかを確認してください。

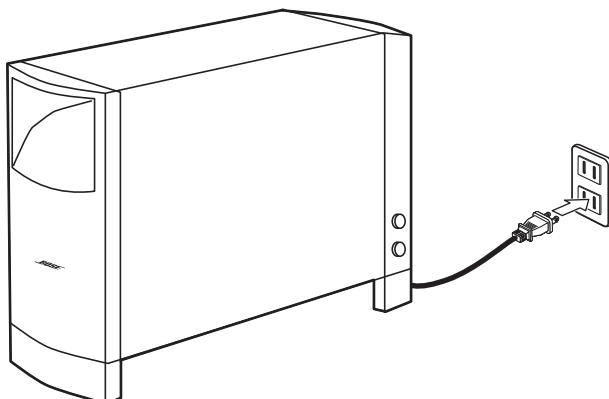
⚠ **注意　AVアンプが破損する可能性がありますから、コードのショートには、十分ご注意ください。**

◆デジタルオーディオ信号の接続◆

●DVDプレーヤーなどのデジタル再生機器からAVアンプの接続の確認をします。
DVDプレーヤーのデジタル音声出力端子とAVアンプのデジタル音声入力端子を接続します。接続には同軸ケーブルか、光デジタルケーブルを使用します。この接続を行っていないと、デジタル音声の送受信が行われません。さらに、DVDプレーヤーなどにデジタル、アナログ音声切替スイッチがある場合は、デジタルに切り替えます。詳しい操作は、それぞれの機器の取扱説明書をご参照ください。

⚠**注意**

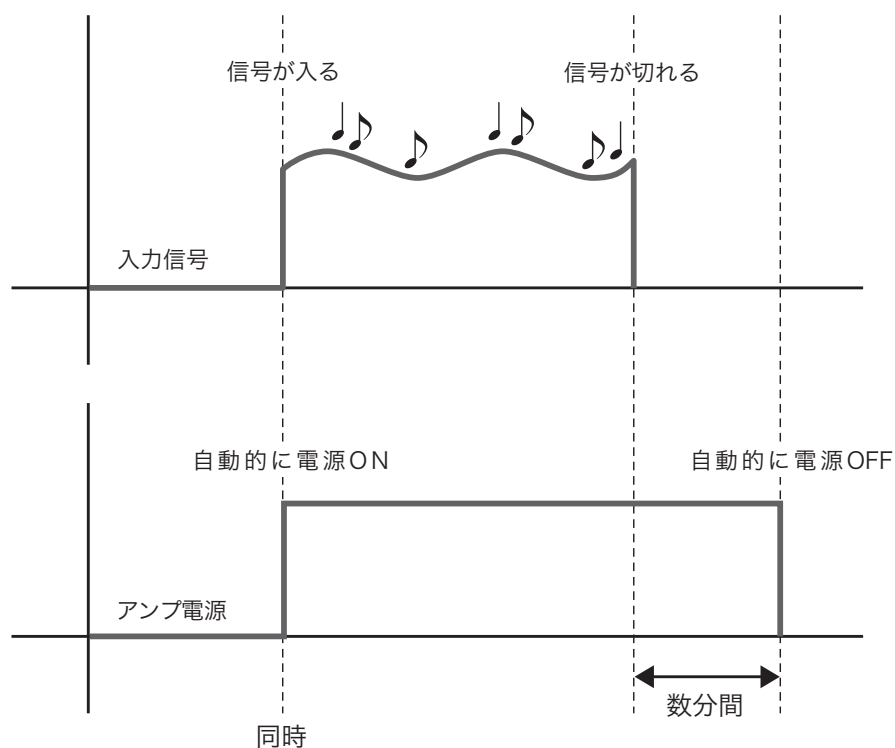
ドルビーデジタル、DTS対応の機器を使用しても､ドルビーデジタルあるいは、DTSでエンコードされていないディスク（ソフト）では､ドルビーデジタルあるいは、DTS再生はできません。ドルビーデジタル、DTS対応のディスク（ソフト）を使用してください。

※Dolby､ドルビー及びダブルD記号は、 ドルビーラボラトリーズの商標です。
「DTS」および「DTSデジタルサウンド」 はDTS社の登録商標です。著作権1996年、2000年DTS社。不許複製。

◆全ての接続が終ったら電源を入れます◆

全ての接続が確認できたら、ベースモジュール用ACケーブルをコンセントに接続します。

◆電源のON/OFFについて◆

●本システムはオートパワースイッチ（自動ON/OFFスイッチ）を採用しています。

ベースモジュールにAC電源が供給されていれば、ベースモジュールに信号が入力されるとベースモジュール内のアンプが自動的にONになり、入力されている信号が止まると、一定時間の後自動的にスタンバイ状態になります。本システムを操作する度に、このスイッチをON/OFFにする必要はありません。

※ベースモジュール内のアンプは、通電していても入力信号が入っていなければ、スタンバイ状態の省エネモード（消費電力1W以下）になっています。

AVアンプを使用するときの注意

◆センタースピーカーの音質調整について◆

5本すべてのサテライトスピーカーは全く同じものなのでセンタースピーカーの音質調整は必要ありません。

◆AVアンプのサラウンド諸設定をしてください◆

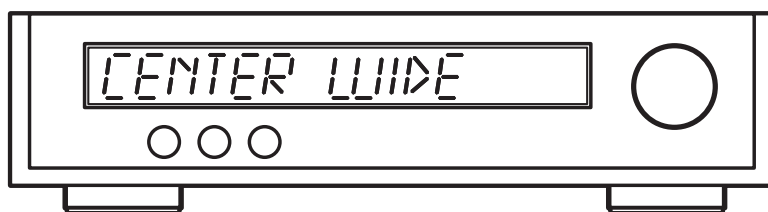
サラウンド再生を行う場合必ずAVアンプの設定を行う必要があります。サラウンド・モードにした後、設定を行います。

◆AVアンプがドルビー・プロロジックの場合◆

AVアンプの設定は、ご使用になるAVアンプの機種や、メーカーによって大きく違ってきます。設定手順、方法については、ご使用になるAVアンプの取扱説明書をよく読んで、取扱説明書の手順に沿って行ってください。

センタースピーカーの設定は以下のように行ってください。

・センタースピーカーを「使用する」モードを選んでください。

・使用するセンタースピーカーの設定は「Large（大)」または「WIDE」を選んでください。

◆ドルビー・デジタル(AC-3)、DTS対応のAVアンプで5.1チャンネル再生する場合◆

・サラウンドスピーカーとフロントスピーカーの音量バランスをとります。

・サラウンドスピーカーの遅延時間を調整します。

・各チャンネルのスピーカーサイズの設定をおこないます。チャンネルごとのスピーカーの設定は、下の表を参考にしてください。サテライトスピーカーはフルレンジのスピーカーとして働きますので、全て「Large（大)」にセットします。

・サブウーファーは「ON（オン)」（使用する）にします。

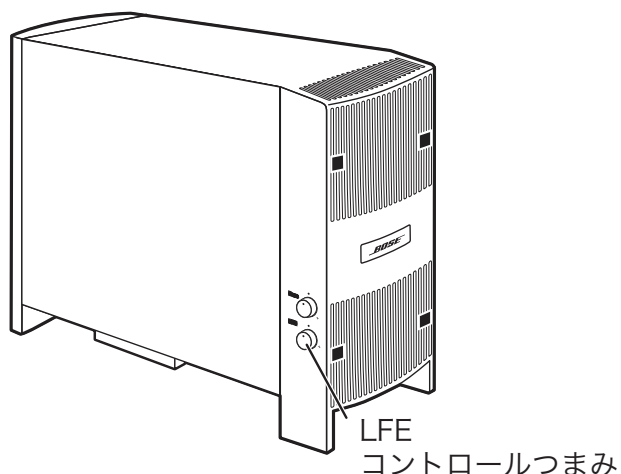
・LFE（低域効果音）を「ON（オン)」にし、クロスオーバー周波数が設定できるものは、80Hzまたは設定可能な最小の値に設定します。

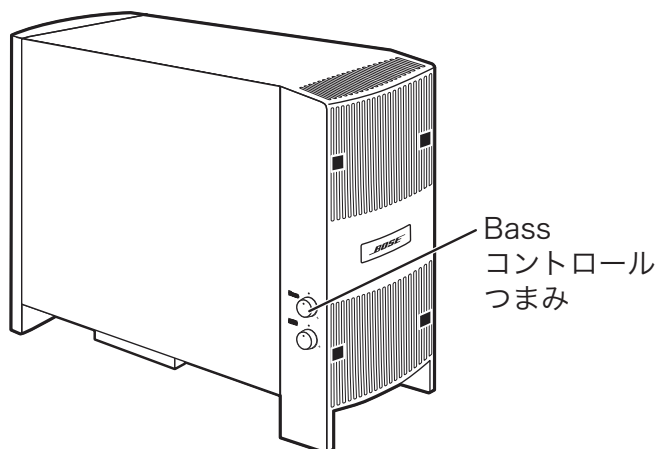
ただし、ご使用のAVアンプのメーカーやモデルによって、調整方法や、調整内容が違いますので、くわしくは、お手持ちのAVアンプの取扱説明書をご参照ください。

スピーカーとLFEの設定について

スピーカー	AVアンプの設定
フロント　L/Rチャンネル	Large（大）
センター（中央）チャンネル	Large（大）、WIDE
サラウンド　L/Rチャンネル	Large（大）
サブウーファー	ON（オン）使用する
LFE	ON（オン）最大レベル
クロスオーバー周波数	80Hz／設定可能な最小値

より迫力あるサウンドのために

●LFE（Low Frequency Effects/低域効果音 ）の音量調整について

ベースモジュールのLFEレベルコントロールで映画のサウンドトラックのLFE（低域効果音）レベルの増減ができます。LFEコントロールつまみを回して低域効果音量を調整します。この音量はあらかじめ標準的な視聴状況に合わせてありますので、必ずしも調整は必要ありませんが、お部屋の状況やお好みに応じて音量を合わせてください。

●Bassの音量調整

ベースモジュールのBassコントロールつまみで、LFE以外の5チャンネル分フロント（Lch/Rch/Cch）、サラウンド（Lch/Rch）の低音部分の音量を調整できます。たとえば高域の音が響きやすいときには、少し低音の量を増すというようにお部屋の状況に合わせて調整します。この音量はあらかじめ標準的な視聴状況に合わせてありますので、必ずしも調整は必要ありませんが、お部屋の状況やお好みに応じて音量を合わせてください。

◆低音および高音の調節◆

ご使用になる部屋の特性によって低音と高音の調節をする必要があります。たとえば、布製の家具や床全体に敷き詰めたカーペットあるいは厚いドレープ・カーテンなどがある場合、高音が吸収され、スピーカー・システムの低音が強調されて聞こえる可能性があります。また、フローリングや大理石などを使用した床や壁、堅い表面の家具の場合は、高域成分が多くなり過ぎる可能性があります。低音と高音の調節が必要な場合は、スピーカーから再生される音を聞きながら、AVアンプの音質調整機能を使用して調節してください。

故障かな？と思ったら

AM-6III スピーカーシステムに問題がある場合は、一度AVアンプの電源を切り、以下の解決方法を試してみてください。

問　　題	解決方法
システムがまったく働かない	・AVアンプを含め、AVアンプに接続されている音源（ビデオ、CD、チューナー等)の機器の電源が入っているかを確認する。 ・AVアンプで適切な音源を選択しているか確認する。
音が出ない	・デジタル音声の場合、デジタル機器のデジタル音声出力端子とAVアンプのデジタル音声入力端子が同軸／光デジタルケーブルで接続されているか確認する。 ・スピーカーの接続を点検する。 ・各機器の電源が入っているか確認する。 ・アンプの音量を上げる。 ・ヘッドホン/イヤホンが差し込まれていないか確認する。
音が歪む	・スピーカーの コードが破損していないか確認する。 ・AVアンプに入力信号のレベル調整機能がある場合は、入力レベルの調整をする。
低音が出ない	・AVアンプのスピーカー出力端子の極性とスピーカーコードの極性が間違いないことを確認する。 ・AVアンプの各種設定が適切であるか確認する。
低音が少なかったり、大きすぎる	・ベースモジュールを壁またはコーナーに近づけると低音が大きくなり、壁またはコーナーから離すと低音が小さくなるというバウンダリー効果（境界面効果）を使って調整する。 ・ベースモジュール横のLFE/Bassコントロールつまみで調整する。
サラウンド効果が余りない	・AVアンプをドルビー・プロロジックモードで使用している場合、サラウンド・モードになっているかどうか確認する。 ・ドルビー・デジタルAC-3またはＤＴＳサラウンドの場合は、AVアンプ設定(各種設定および、サラウンド側の音量)が適切であるかどうか、ドルビー・デジタルAC-3またはDTSがオンになっているかどうか確認する。また、音源(レーザー・ディスク、DVD)や再生しているソフトがドルビー・デジタルAC-3またはDTS用に対応していることを確認する。

お問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせ先

ボーズ株式会社　サービスセンター　　お客様専用ナビダイヤル 0570−080−023

PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-1124へおかけください。

〒206-0035 東京都多摩市唐木田1-53-9 唐木田センタービル

製品等のお問い合わせ先

ボーズ株式会社　ユーザーサポートセンター　　お客様専用ナビダイヤル 0570−080−021

PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-0955へおかけください。

仕　様

●総合

インピーダンス	6Ω
許　容　入　力	フロント（L／C／R）、サラウンド（L／R）100W/ch rms(IEC268-5)
カ　　ラ　　ー	ブラック
付　　属　　品	入力用スピーカーコード（6m 6本組・1セット） フロントスピーカー用出力コード（6m×3本） サラウンドスピーカー用出力コード（15m 2本組・1セット）

●サテライト・スピーカー（防磁型）

ユニット構成	60mmドライバー×1（1本）
防　磁　方　式	キャンセリング・マグネット方式、シールド方式併用
入　力　端　子	スナップイン・ターミナル
外　形　寸　法	78（W）×78（H）×104（D）mm
質　　　　量	0.55 kg(1本)

●アクースティマス・ベースモジュール（非防磁型）

ユニット構成	13cmウーファー×1
外　形　寸　法	211（W）×414（H）×570（D）mm
質　　　　量	12.5 kg

〈内蔵アンプ部（ウーファー用）〉

定　格　出　力	75W
電　源　電　圧	AC100V、50/60Hz

保　証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

ボーズ株式会社　http://www.bose.co.jp/
〒150-0036　東京都渋谷区南平台町16-17 渋谷ガーデンタワー 5階

●仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品は、保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

OM-1291-E
12•10 (B)